

施設実習における現場職員ニーズと学生ニーズ

野田 敦史・上田 征三

東京未来大学こども心理学部 こども保育・教育専攻

(2013年12月31日受理)

1 問題と目的

保育実習は、必修科目としての「保育実習Ⅰ（4単位）」と選択必修科目としての「保育実習Ⅱ又はⅢ（2単位）」で構成されている⁽¹⁾。このうち施設実習は、「保育実習Ⅰ」の保育所での実習を除く、乳児院、児童養護施設など社会的養護を担う児童福祉施設はじめ、医療型・福祉型障害児入所施設、児童発達支援センター⁽²⁾など通所施設および事業、障害者支援施設、障害者就労支援事業等での実習と、「保育実習Ⅲ」の児童厚生施設および、その他社会福祉施設関係諸法令にもとづく保育所を除く施設での実習が、これに該当する。実習期間は、他の保育実習と同様「概ね11日間で90時間以上の実習が望ましい」との厚生労働省の指導から、多くの保育士養成校では、11日間もしくは12日間の実習を課している。さらに実習形態としては、近年、通勤実習は増えてきているものの、入所型の社会福祉施設での実習が多いことから、宿泊実習の形態をとる場合が少なくない状況となっている。以上のことから、施設実習の特徴として、施設実習の対象施設が多様であること、実習カリキュラム上、時間的配分からも施設実習は、保育所実習と同等の教育機会として位置づけられていることが把握できる。

このことは、当初、保育士を保育所で就職するための基礎資格とした意識で養成校へ入学してきた学生の立場からすると、施設実習は、相当なストレス、プレッシャーを伴う実習であることが理解できる。すなわち、施設実習に関わる養成校の担当教員と現

場職員は、これらの学生に対し、保育専門職として施設実習の意義を理解させることに多くの課題を有していることが推測できる。

施設実習の意義は、一般的に養成校では、保育士養成協議会ミニマムスタンダード（2005年）で示された「居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる」ことを、ねらいとし意義づけしている。また、野田⁽³⁾は、施設実習の意義を「1. 通所・通園から入所まで、また乳幼児から成人まで、バリエーション豊かな実習先が保育士の専門性の幅を広げること」、「2. 学生自身がこれまでの人生経験に無い出会いと体験による新たな人間観・子ども観の獲得の機会であること」、「3. 福祉専門職としての保育士理解に向けてソーシャルワークを学ぶ機会であること」、「4. 福祉実践現場の職務理解の場として、今後の自分の人生で起こり得る体験の場としての経験を通じ、学生自身の人間的な成長の機会であること」以上4点を掲げており、施設実習が単なる保育技術習得の機会のみならず、福祉専門職として、あるいは保育士に必要な人間性の醸成を担う機会として幅広い意義として捉えられていることが理解できる。

以上のように、施設実習は、多種多様な実習先がある環境の中で、大きな意義と可能性が存在しているものの、反面、その「多様性」という実習環境特性が学生にとっては、明確な施設理解と実習意義の理解ができずに不安を抱えた状態で実習初日を迎えることが少なくないといったなどの課題を有してい

る。また、受け入れ先の施設も保育士の実習の他、社会福祉士や介護福祉士の実習、教員免許状取得に係る介護等体験など多種多様な人材育成の場として多くの学生を受け入れている。この環境は「多様な学生の教育ニーズに対応した実習教育環境を設定する」といった観点において、保育士養成校の教員と同様の視点と困難性を抱えている問題といえる。

これらの問題の背景を踏まえ、本研究では、探索的に施設実習における実習学生と施設の実習担当職員、双方のニーズが合致しているか、あるいは合致しない部分はどのような場合か等を量的調査を通じて把握することを目的とする。具体的には、施設実習を終了した学生に対して、施設実習の事前、事後を含めた施設実習全般を振り返っての満足度を調査し、学生の施設実習ニーズの実態を把握することとする。第二の目的として同様に施設の実習担当者に対し施設実習の実施内容および学生や養成校に対する満足度を調査し、施設実習職員の施設実習ニーズの実態を把握することにする。さらに、学生の施設実習ニーズと施設職員の施設実習ニーズとの関係を統計的分析から相関関係から紐解くことにする。これらの調査・研究成果から最終的には、施設実習に関連する養成校での教育と施設現場での実習教育の課題と方向性を明示するものである。

2 方法

上記の目的達成のために以下の手順で検討を行った。1) 保育実習 I (施設実習) を終了した学生に対し、実習内容が詳細に把握できるよう報告書を記入させ、施設実習の教育内容・方法について量的把握を行った。2) 同様の対象学生に対し施設実習前、実習中、実習後の場面での満足度をアンケート調査から量的把握を行った。3) 保育実習 I (施設実習) の受け入れを行っている関東圏内の社会福祉施設に対し、「施設実習の受け入れ状況」、「保育士養成校および保育実習学生に対する満足度」等を質問するアンケート調査から量的把握を行った。4)

それぞれの報告書およびアンケートから収集したデータを数値化し、「学生満足度」、「施設の満足度」の平均得点による相互相関等の統計的分析・検討を

おこなった。具体的な方法および配慮については以下のとおりとした。

(1) 調査対象者

①実習学生

都内某私立大学保育教育専攻の学生3、4年生の内で2013年度に保育実習 I (施設実習) を実施・終了した学生75名を対象に施設実習事後指導の授業および休み時間を利用し、施設実習担当教員が「施設実習報告書」と「施設実習アンケート」を配布し、記入・提出方法について説明をおこなった。提出先は、大学の実習事務室で実習事務担当が回収した。回収した57名を分析対象データとした。

②施設職員

上記の同大学保育教育専攻の保育実習 I (施設実習) の実習学生を2013年度に受け入れた社会福祉施設47施設の施設実習担当職員を対象に「社会福祉施設等で行う保育実習に関するアンケート調査票」を郵送配布し、封書にて返信してもらい回収した。回収した16施設の調査票を分析対象とした。

(2) 調査内容

本研究で研究データとして使用した実習報告書およびアンケート調査票の内容は以下のとおりとした。

①「施設実習報告書」

施設実習の実施方法を把握することを目的に「施設種別」、「実習種別」、「実習形態」、「事前オリエンテーションの有無」、「事前課題の有無」の5項目を調査データとして利用した。

②「施設実習アンケート」

施設実習に関する学生の主観的な満足度を把握することを目的に「学内での授業や事務手続き、巡回教員に対応に関する内容 (4項目)」、「事前オリエンテーションの内容や対応に関する内容 (2項目)」、「実習中の利用者、職員との関わりやプログラムに関する内容 (6項目)」、「宿泊実習に関する内容 (1項目)」、「総合的な満足度 (1項目)」計14項目に対し、「満足している」、「ある程度、満足している」、「やや不満である」、「不満である」の4件法で回答を求め、得点化しデータとして用いた。

③「社会福祉施設等で行う保育実習に関するアンケート」

施設および実習受け入れの基本的状況を把握すること目的に「保育実習学生の受け入れ状況」、「実習指導者の職位、資格取得状況」の回答を求めた。また、実習を依頼してきた大学および実習に来た学生に対する満足度を把握することを目的に、「実習受前の大学および学生の対応に関する内容（5項目）」、「実習中の学生や巡回教員に関する内容（6項目）」、「その他、日誌や評価表等に関する内容（3項目）」計14項目に対し、「満足している」、「ある程度、満足している」、「やや不満である」、「不満である」の4件法で回答を求め、得点化しデータとして用いた。

(3) 倫理的配慮

アンケート調査対象者の学生および施設実習担当職員ともに、自由意思のもと無記名で、個人・施設名が特定されるようなことはないこと、回答内容によって、あるいは回答を拒否した場合による不利益は一切生じないこと、調査データは、学内外における本学の実習関連の会議と研究以外には使用しないことを書面および学生へは口頭で説明し、同意を得られた者だけに回答を求めた。

3 調査および分析結果

(1) 実習学生の基本属性と事前学習の状況

図1は、「施設実習報告書」をもとに、学生が経験した「施設種別」、「実習形態」、「事前オリエンテーションの実施の有無」、「事前課題の実施の有無」をグラフ化したものである。

結果、「施設種別」は、児童養護施設、障害者支援施設が約3割と多く、障害児入所施設が1割と少ない比率であった。「実習形態」は、約7割が宿泊実習であった。「事前オリエンテーションの有無」については、約9割が実施しており、通常は実施しているものの、今回は学生と施設双方どちらかの都合で未実施の結果になった施設もあり、ほとんどの施設で事前オリエンテーションを実施している結果が推測できた。「事前課題の有無については、約6割弱の施設が実施していない結果となった。

(2) 実習学生の施設実習満足度

表1は、「施設実習アンケート」をもとに質問項目ごとの学生の満足度得点平均と施設種別ごとの満足

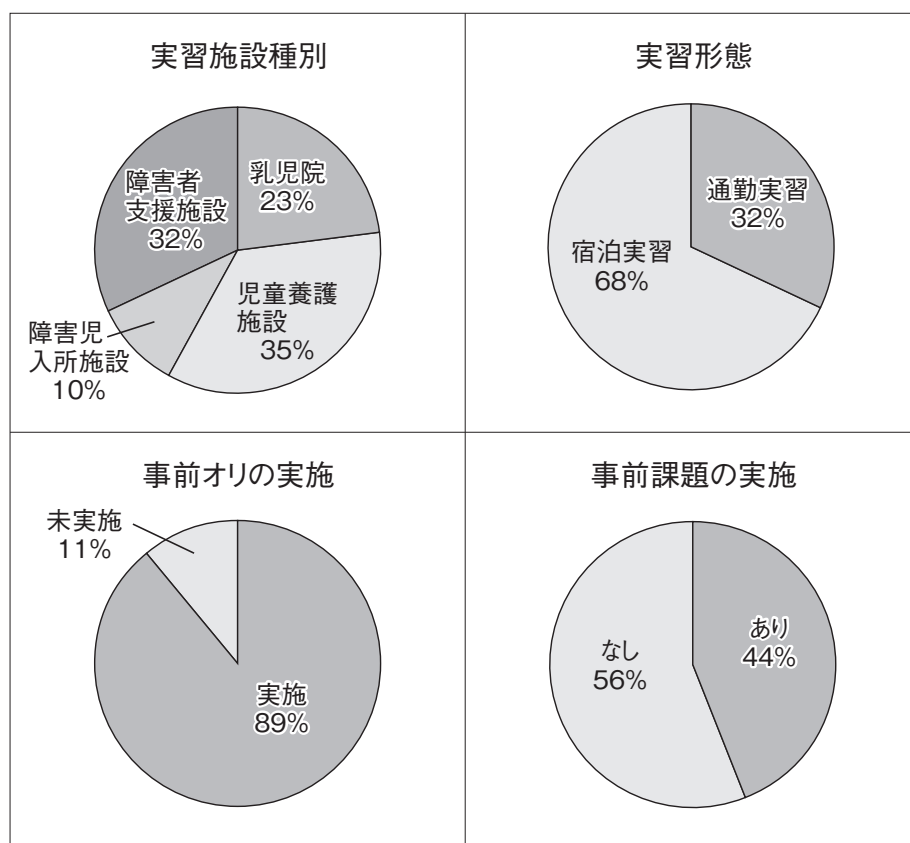


図1 施設実習終了学生の基本属性

度得点平均を一覧表にしたものである。

結果、全体平均では、「G4. 巡回教員の対応」が3.78、「G7. 実習中のプログラム内容」が3.60、「G10. 利用者との関わり」と「G12.実習中の反省会」が3.55の順で高い得点平均であった。一方、低い得点平均は、いずれも満足の範囲であるものの、「G13.宿泊場所の設備・配慮」が3.00、「G11実習中の部分・責任実習」が3.04、「G 2.大学の実習担当教員の対応」と「G 1.「事前指導」科目の内容」が3.26の順であった。

施設種別では、乳児院の平均得点の上位は、「G 4.巡回教員の対応」と「G 7.実習中のプログラム内容」の3.91、「G 9.実習中の職員の指導方法」と「G12.

実習中の反省会」の3.73の順で、下位は、「G 2.大学の実習担当教員の対応」の2.82、「G 1.事前指導科目の内容」と「G13.宿泊場所の設備・配慮」の3.00の順であった。児童養護施設の上位は、「G4.巡回教員の対応」の3.78、「G6.事前オリテン時の職員対応」の3.47、「G3.大学事務職員の対応」の3.44の順で、下位は、「G13.宿泊場所の設備・配慮」の2.89、「G9.実習中の職員の指導方法」の2.94、「G11実習中の部分・責任実習」の2.96の順であった。障害児施設の上位は、「G8.実習中の職員の関わり方」と「G14.実習の総合的な満足度」の3.83、「G12.実習中の反省会」の3.76の順で、下位は、「G13.宿泊場所の設備・配慮」

表 1 施設実習に対する学生の満足度得点

	平均値	標準偏差	実習種別	度 数	平均値	標準偏差
G 1. 「事前指導」科目の内容	3.26	0.59	乳児院	11	3.00	0.63
			児童養護	18	3.28	0.57
			障害児	6	3.33	0.52
			障害者	19	3.37	0.60
G 2. 大学の实習担当教員の対応	3.26	0.68	乳児院	11	2.82	0.75
			児童養護	18	3.39	0.61
			障害児	6	3.50	0.55
			障害者	19	3.32	0.67
G 3. 大学事務職員の対応	3.52	0.50	乳児院	11	3.55	0.52
			児童養護	18	3.44	0.51
			障害児	6	3.67	0.52
			障害者	19	3.53	0.51
G 4. 巡回教員の対応	3.78	0.42	乳児院	11	3.91	0.30
			児童養護	18	3.78	0.43
			障害児	6	3.67	0.52
			障害者	19	3.74	0.45
G 5. 事前オリ内容	3.47	0.52	乳児院	11	3.68	0.46
			児童養護	18	3.30	0.54
			障害児	6	3.50	0.55
			障害者	19	3.50	0.50
G 6. 事前オリテン時の職員対応	3.51	0.55	乳児院	11	3.68	0.46
			児童養護	18	3.47	0.47
			障害児	6	3.17	0.98
			障害者	19	3.55	0.50
G 7. 実習中のプログラム内容	3.6	0.62	乳児院	11	3.91	0.30
			児童養護	18	3.33	0.84
			障害児	6	3.67	0.52
			障害者	19	3.66	0.47
G 8. 実習中の職員の関わり方	3.43	0.77	乳児院	11	3.64	0.67
			児童養護	18	3.06	0.94
			障害児	6	3.83	0.41
			障害者	19	3.53	0.61
G 9. 実習中の職員の指導方法	3.37	0.71	乳児院	11	3.73	0.47
			児童養護	18	2.94	0.80
			障害児	6	3.50	0.55
			障害者	19	3.53	0.61
G10. 利用者との関わり	3.55	0.53	乳児院	11	3.55	0.69
			児童養護	18	3.33	0.49
			障害児	6	3.67	0.52
			障害者	19	3.71	0.45
G11. 実習中の部分・責任実習	3.04	0.45	乳児院	11	3.09	0.54
			児童養護	18	2.96	0.54
			障害児	6	2.86	0.42
			障害者	19	3.13	0.31
G12. 実習中の反省会	3.55	0.66	乳児院	11	3.73	0.47
			児童養護	18	3.22	0.88
			障害児	6	3.76	0.41
			障害者	19	3.68	0.48
G13. 宿泊場所の設備・配慮	3.00	0.70	乳児院	11	3.00	0.45
			児童養護	18	2.89	0.58
			障害児	6	2.67	1.21
			障害者	19	3.21	0.71
G14. 実習の総合的な満足度	3.44	0.69	乳児院	11	3.64	0.50
			児童養護	18	3.11	0.83
			障害児	6	3.83	0.41
			障害者	19	3.53	0.61

の2.67、「G13実習中の部分・責任実習」の2.86、「G6. 事前オリエン時の職員対応」の3.17の順であった。障害者支援施設の上位は、「G4.巡回教員の対応」の3.74、「G10.利用者との関わり」の3.71、「G12.実習中の反省会」の3.68の順で、下位は、「G11. 実習中の部分・責任実習」の3.13、「G13.宿泊場所の設備・配慮」の3.21、「G2.大学の実習担当教員の対応」の3.32の順であった。

表2～4は、「施設実習報告書」で得られた「実習形態」、「事前課題の実施の有無」、「事前オリエンテーションの実施の有無」のデータをもとに実習学生の施設実習満足度の質問項目ごとに群を分け、その群の平均の差を検討し、統計的に有意な差であった項目を表にしたものである。結果、通勤実習と宿泊実習の実習形態の別による満足度の得点差では、「G 6.事前オリエン時の職員対応」、「G 7.実習中のプログラム内容」の2項目に有意な差があった。事前オリエンテーション実施の有無による満足度の得点差では、「G 1.事前指導科目の内容」、「G 7.実習

中のプログラム内容」、「G 8.実習中の職員の関わり方」、「G 9.実習中の職員の指導方法」、「G11. 実習中の部分・責任実習」、「G12.実習中の反省会」、「G14.実習の総合的な満足度」の7項目に有意な差があった。事前課題の有無による満足度の得点差では、「G 1.事前指導科目の内容」、「G10.利用者との関わり」の2項目に有意な差があった。

(3) 実習施設と実習担当職員の基本属性

図2は、「社会福祉施設等で行う保育実習に関するアンケート」をもとに、実習受け入れ施設の「年間の保育実習受け入れた人数」、「保育実習以外の他実習を受け入れた年間実績」、および実習担当職員の「現在の職種」、「取得している資格」の比率をグラフ化したものである。

結果、「年間の保育実習受け入れ人数」は、20～29名の施設が約3割と多く、次いで50名以上の施設が2割強であった。10名未満の施設は1割程度と少なく、社会福祉施設等での保育実習学生の受け入れ実績が多い傾向にある結果であった。「保育実習以

表2 実習形態による実習満足度得点の差

	通勤実習		宿泊実習		t 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
G 6. 事前オリエン時の職員対応	3.69	0.44	3.47	0.54	1.40*
G 7. 実習中のプログラム内容	3.81	0.75	3.53	0.55	1.53*

*p<0.5

表3 事前課題の有無による満足度得点の差

	課題あり		課題なし		t 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
G 1. 「事前指導」科目の内容	3.39	0.50	3.17	0.65	1.38*
G 10. 利用者との関わり	3.37	0.57	3.67	0.48	-2.05**

*p<0.5, **p<0.1,

表4 事前オリエンテーション実施の有無による実習満足度得点の差

	オリ実施		オリなし		t 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
G 1. 「事前指導」科目の内容	3.34	0.52	2.67	0.82	2.78**
G 7. 実習中のプログラム内容	3.71	0.50	2.83	0.98	3.61***
G 8. 実習中の職員の関わり方	3.49	0.69	2.83	1.17	2.02**
G 9. 実習中の職員の指導方法	3.45	0.62	2.67	1.03	2.68**
G 11. 実習中の部分・責任実習	3.09	0.38	2.67	0.82	2.14**
G 12. 実習中の反省会	3.62	0.61	3.00	0.89	2.21**
G 14. 実習の総合的な満足度	3.53	0.58	2.83	1.17	2.42**

p<0.1, *p<0.01

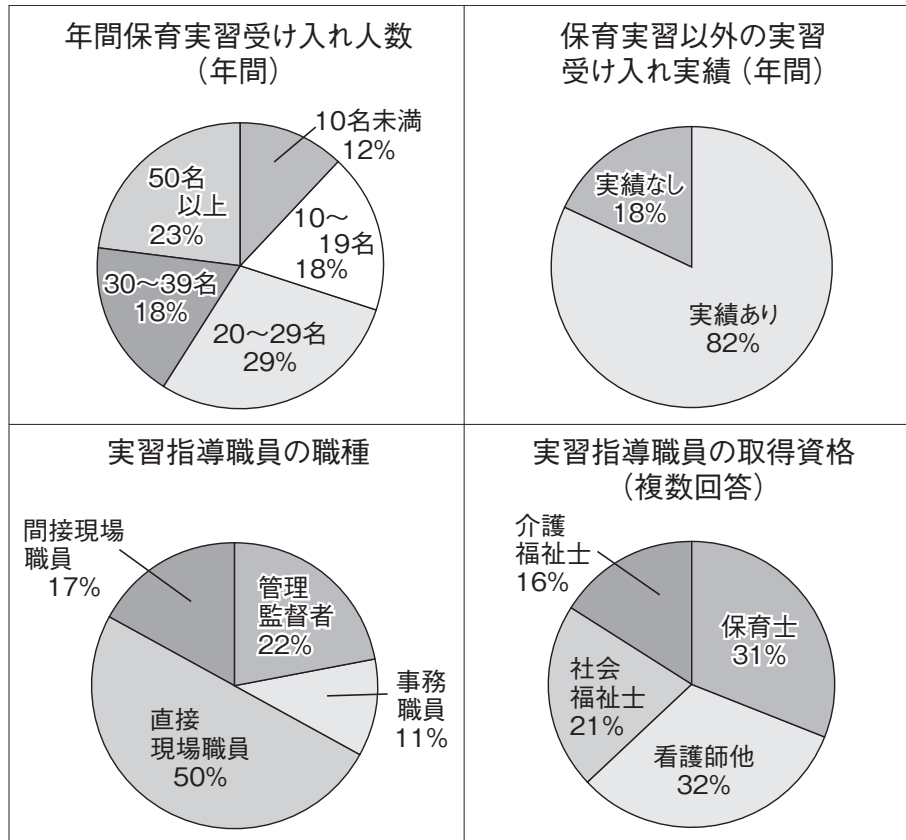


図2 施設実習受け入れ施設と実習担当職員の基本属性

外その他実習を受け入れた年間実績」は、8割強の施設で実績ある結果であった。「実習担当職員の職種」は、半数が直接現場職員で、次いで2割強で管理監督者であった。「実習担当職員の取得している資格」は、保育士と看護師が3割強と多く、次いで社会福祉士の2割強の比率であった。

(4) 実習担当職員の満足度

表5は、「社会福祉施設等で行う保育実習に関するアンケート」をもとに、質問項目ごとの実習担当職員の満足度得点平均と施設種別ごとの満足度得点平均を一覧表にしたものである。

結果、全体平均では、「S3.実習指導料の方法・内容」が3.75、「S1.実習事務の対応」が3.71、「S5.オリテン時等の学生の態度」が3.65の順で高い得点平均であった。一方、低い得点平均は、いずれも満足の範囲であるものの、「S8.施設の理解度」が3.00、「S7.実習中の利用者との関わり」が3.06、「S9.保育・福祉の理解度」が3.12の順であった。

施設種別では、乳児院の平均得点の上位は、「S3.実習指導料の方法・内容」が3.75、「S1.実習事務の対応」が3.74、「S5.オリテン時等の学生の態度」が3.73の順で、下位は、「S8.施設の理解度」が3.40、「S7.実習中の利用者との関わり」が3.41、「S9.保育・福祉の理解度」が3.42の順であった。児童養護施設の平均得点の上位は、「S5.オリテン時等の学生の態度」が3.75、「S1.実習事務の対応」と「S2.実習時期の設定」が3.50の順で、下位は、「S8.施設の理解度」が2.50、「S7.実習中の利用者との関わり」と「S9.保育・福祉の理解度」が2.75の順であった。下位項目は、いずれも「不満」を示す3点未満の平均点であった。障害児入所施設の平均得点の上位は、「S3.実習指導料の方法・内容」が4.00、「S5.オリテン時等の学生の態度」が3.67、「S2.実習時期の設定」と「S11.巡回教員の指導」が3.52の順で、下位は、「S9.保育・福祉の理解度」と「S8.施設の理解度」および「S7.実習中の利用者との関わり」の3項目がいずれも2.67と

表5 養成校および実習学生に対する実習担当職員の満足度得点平均

質問項目	平均値	標準偏差	実習種別	度数	平均値	標準偏差
S 1. 実習事務の対応	3.71	0.57	乳児院	5	3.74	0.43
			児童養護	4	3.50	0.58
			障害児	3	3.33	1.15
			障害者	6	4.00	0.00
S 2. 実習時期の設定	3.56	0.48	乳児院	11	3.51	0.50
			児童養護	18	3.50	0.58
			障害児	6	3.52	0.50
			障害者	19	3.67	0.52
S 3. 実習指導料の方法・内容	3.75	0.42	乳児院	11	3.75	0.43
			児童養護	18	3.44	0.52
			障害児	6	4.00	0.00
			障害者	19	3.83	0.41
S 4. 実習前の学生の態度	3.47	0.61	乳児院	11	3.49	0.50
			児童養護	18	3.50	0.58
			障害児	6	3.33	1.15
			障害者	19	3.50	0.55
S 5. オリエン時等の学生の態度	3.65	0.48	乳児院	11	3.73	0.44
			児童養護	18	3.75	0.50
			障害児	6	3.67	0.58
			障害者	19	3.50	0.55
S 6. 実習中の学生の態度	3.24	0.64	乳児院	11	3.45	0.51
			児童養護	18	3.00	0.82
			障害児	6	3.00	1.00
			障害者	19	3.33	0.52
S 7. 実習中の利用者との関わり	3.06	0.73	乳児院	11	3.41	0.54
			児童養護	18	2.75	0.50
			障害児	6	2.67	1.53
			障害者	19	3.17	0.41
S 8. 施設の理解度	3.00	0.59	乳児院	11	3.40	0.55
			児童養護	18	2.50	0.58
			障害児	6	2.67	0.58
			障害者	19	3.17	0.41
S 9. 保育・福祉の理解度	3.12	0.58	乳児院	11	3.42	0.53
			児童養護	18	2.75	0.50
			障害児	6	2.67	0.58
			障害者	19	3.33	0.52
S 10. 巡回教員の対応	3.50	0.49	乳児院	11	3.50	0.50
			児童養護	18	3.50	0.58
			障害児	6	3.50	0.50
			障害者	19	3.50	0.55
S 11. 巡回教員の指導	3.56	0.48	乳児院	11	3.51	0.50
			児童養護	18	3.50	0.58
			障害児	6	3.52	0.50
			障害者	19	3.67	0.52
S 12. 日誌の体裁等	3.40	0.57	乳児院	11	3.56	0.43
			児童養護	18	3.50	0.58
			障害児	6	3.00	1.00
			障害者	19	3.40	0.49
S 13. 実習出席表の体裁等	3.44	0.48	乳児院	11	3.49	0.50
			児童養護	18	3.50	0.58
			障害児	6	3.48	0.50
			障害者	19	3.33	0.52
S 14. 評価表の体裁等	3.40	0.46	乳児院	11	3.48	0.50
			児童養護	18	3.50	0.58
			障害児	6	3.47	0.50
			障害者	19	3.23	0.41

最も低かった。障害者施設の平均得点の上位は、「S1.実習事務の対応」が4.00、「S3.実習指導料の方法・内容」が3.83、「S2.実習時期の設定」と「S11.巡回教員の指導」が3.67の順で、下位は、「S8.施設の理解度」と「S7.実習中の利用者との関わり」が3.17、「S14.評価表の体裁等」が3.23の順であった。

なお、この分析の他に「施設実習報告書」で得られた「実習形態」、「事前オリエンテーションの実施の有無」、「事前課題の実施の有無」のデータをもとに2群に分け、実習担当職員の満足度得点の平均の差を検討したが、いずれも統計的に有意な差は認め

られなかった。

(5) 実習担当職員と学生の満足度との関係

表6は、学生の施設実習に対する満足度と実習担当職員の満足度得点間の相関係数を示したものである。学生の満足度項目の「G6. 事前オリエンテーションにおける職員の対応」と、実習担当職員の満足度項目の「S 4. 実習前の学生の態度」、「S7. 利用者との関わり」、「S9. 保育・福祉の理解度」との間に有意な正の相関が、同じく「S8. 施設の理解度」との間にやや弱い有意な正の相関が見られた。

表6 実習担当職員と学生の満足度の相関係数

	G 5. 事前オリ 内容	G 6. 事前オリ 職員対応	G 7. 実習 プログラム	G 8. 職員の 関わり	G 9. 職員の 指導方法	G10. 利用者 との関わり	G11. 部分・ 責任実習	G12. 反省会
S 4. 実習前 学生態度	0.12	0.54**	0.10	-0.09	-0.09	-0.19	-0.23	0.06
S 5. オリテン 学生態度	0.19	0.00	-0.25	-0.02	-0.13	0.07	-0.13	0.00
S 6. 実習中 学生態度	-0.03	0.36	0.30	-0.08	-0.08	0.01	-0.03	0.12
S 7. 利用者 との関わり	0.00	0.51**	0.10	-0.25	-0.17	-0.14	-0.02	0.02
S 8. 施設の 理解度	0.07	0.40*	0.32	-0.14	0.14	-0.07	-0.01	0.17
S 9. 保育・福祉 の理解度	0.16	0.50**	0.32	-0.06	0.11	-0.03	-0.02	0.28
S10. 巡回教員 の対応	0.17	0.12	-0.32	-0.22	-0.31	0.03	-0.10	-0.11
S11. 巡回教員 の指導	0.03	0.02	-0.17	-0.18	-0.16	0.02	0.26	-0.14

* p < 0.5, ** p < 0.1.

4 考察

(1) 学生の施設実習に対するニーズ

学生の施設実習に対する各項目の満足度評価の平均点で上位にあったのは、「巡回教員の対応」、「実習中のプログラム内容」、「利用者との関わり」、「実習中の反省会」であった。このうち「巡回教員の対応」と「実習中の反省会」は、学生が対面で大学教員や施設職員と話す場面での満足度が高かったことを意味し、この場面は、実習の振り返りの中で、自分がおこなった主観的な思いやネガティブな思考を、客観的な思いやポジティブな思考へと変える場面という重要な意味を持っていたことが推測できる。また、「実習中のプログラム」と「利用者との関わり」が高かったことは、実習学生の満足度に実習中の満足度を上げる要因として利用者が存在していることが理解できた。これらのことから学生の実習満足度には、利用者をはじめ施設職員、大学教員等、実習に関わる全ての人的資源が影響を与えており、必要不可欠な要素であることが推察できた。一方、満足度平均点の下位には、「実習中の部分・責任実習」、「大学の実習担当教員の対応」があった。このことは、多種多様な実習施設がある中で、学生が大学の事前指導の授業の中で、実習中での部分・責任実習の内容・方法などの不安を抱え、学習ニーズがあるにも関わらず、それに大学教員がそれに対応しきれていない表れであることも推察できた。

施設種別における学生満足度の全体得点平均は、「障害者支援施設 (3.50)」、「乳児院 (3.49)」、「障害児入所施設 (3.47)」、「児童養護施設 (3.25)」の順であった。

このうちの「児童養護施設」が統計的な有意差は認められなかったものの、他施設と比較して低い得点であったことは、「宿泊場所の設備・配慮」、「実習中の職員の指導方法」、「実習中の部分・責任実習」の3項目で平均点が「不満」の範囲であったことから推測すると、①他施設よりも宿泊実習であり、かつ変則勤務が多い実習形態であったこと、②プライバシーの関係で入所児童の入所理由等の個人情報十分に学生へ伝えられないまま実習や指導が行わなくてはならない指導環境が少なからず存在しているかもしれないこと、③学生が利用児童との関係において課題を多く抱えながら、施設職員の指導を受けたにも関わらず、その関係性の課題が実習期間中に改善できなかった可能性があったこと等が考えられた。

一方、「乳児院」の上位4項目の「巡回教員の対応 (3.91)」、「実習中のプログラムの内容 (3.91)」、「実習中の職員の指導方法 (3.73)」、「実習中の反省会 (3.73)」は、統計的な有意差は認められなかったものの他施設種別と比較して高い平均点であった。このことは、乳児院の実習が①対象乳幼児年齢が乳児もしくは低年齢の幼児ということで学生の意識が職員の指導に注目できる傾向にあったこと ②実習指

導者が看護関係職員も入っており、指導方法が理論的かつ体系的な説明が行われていたこと、③実習内容が初期から中期にかけ、乳幼児との関わり(抱き方、食事介助の方法など)等の保育技術に重心を置いた指導プログラムになる傾向にあること等が考えられる。

また、「障害児入所施設」では、上位2項目が「実習中の職員の関わり方(3.83)」、「実習中の総合的な満足度(3.83)」であったことが特徴的な結果であった。このことは、身体的、情緒的、社会的な障害を抱える入所児童が生活している場面の中で、相当に学生が不安を抱えて実習に入ったにも関わらず、実習過程の中で職員が実習学生の実習ニーズに応えた適切な指導の結果の表れであること等が考えられた。

「実習形態」、「事前オリエンテーション実施の有無」、「事前課題の有無」による学生満足度の差の検討のうち、統計的に有意差があったのは、「事前オリエンテーション実施の有無」の群差の項目数が7項目と多かった。中でも「実習中のプログラム内容」の項目は、顕著に平均点の差があった。これらのことから、事前オリエンテーションの実施は、実習期間中の学生の実習満足度に大きな影響を及ぼしている可能性が示唆された。

(2) 実習担当職員の保育実習学生に対するニーズ

実習担当職員の実習学生に対する各項目の満足度の得点平均は、全ての項目が3点以上で「満足」の域であった。上位項目は、「実習指導料の方法・内容」、「実習事務の対応」、「オリエン時等の学生の態度」で、概ね養成校の対応には満足していることが把握できた。一方、下位項目は、「施設の理解度」が、「実習中の利用者との関わり」、「保育・福祉の理解度」で、実習担当職員が実習学生の利用者の関わりや施設・福祉・保育の理解度に対し、やや満足していない、あるいは実習学生に対するニーズとして持っていることが推察できた。

施設種別における実習担当職員満足度の上位項目および下位項目については、全体の得点平均と差異のない結果であった。同様に、「実習形態」、「事前オリエンテーションの実施の有無」、「事前課題の実

施の有無」のデータをもとにした得点平均の群差についても統計的な有意差は認められなかった。このことは、①アンケート調査表の回収データ数が少なかったこと(n=18)、②真に施設種別の実習担当職員の実習学生に対する満足度に差が求められないこと等が考えられる。

(3) 実習担当職員と実習学生ニーズとの関係

学生の実習に対する満足度と実習担当職員の満足度得点間の相関は、いずれも学生の満足度項目の「事前オリエンテーションにおける職員の対応」と、実習担当職員の満足度項目の「実習前の学生の態度」、「利用者との関わり」、「保育・福祉の理解度」、「施設の理解度」との間に有意な正の相関が認められた。このことは、学生にとって効果的・意義ある事前オリエンテーションの実施は、実習中の利用者との関わりや施設・保育・福祉の理解に繋がることが推察できた。一方、今回の調査は、実習担当職員の基本属性のひとつである「職種」の半数が直接現場職員以外からの回答であったので、その両職員が関わる「事前オリエンテーション」のみに回答傾向が偏った可能性もあることも理解しておきたい。

5 結論および今後にあたって

本研究は、施設実習において実習学生および施設実習担当職員双方からの満足度を調査し、統計的分析から、その関係性の傾向を把握しようとしたものである。換言すれば、実習学生と実習担当職員の満足度から両者が求めているものの内容と関係性の傾向を紐解こうとしたものである。

全般的に本調査から実習学生と実習担当職員との満足度は高く、概ね不満が無いことが理解できた。反面、満足度の高低から、両者が求めているものの差異が浮き彫りとなった。

実習学生が求めているものは、具体的な利用者との対応技術や、どのような実習が行われるかという明確イメージ、子どもの個別的生活背景等であることが示唆された。一方、実習担当職員が求めているものは、実習学生が利用者とのように関わられるか、あるいは施設・保育・福祉の理解をしているか等であることが示唆された。さらに、双方のニー

ズに関係する場面として事前オリエンテーションが注視すべき場面として考えられた。

この結果により、実践分野において今後の大学の事前指導の授業では、施設種別ごとの詳細かつ具体的な技術習得を含めた実習教育の必要性があると考えられる。同様に実習担当職員においては、実習学生の保育・福祉・施設の理解を、学生に対してあるいは大学の実習担当教員と連携しながら、いかに動機付けできるかが重要である。研究分野においては、今回、満足度を尺度に効果測定をおこなったが、学生の自己評価や施設担当職員の評価尺度の差異からの効果測定など異なった尺度での効果測定の検討も必要と考えられる。また、本調査研究結果を踏まえ、満足もしくは不満足に至った内容等の質的研究の検討も必要と考えられる。

引用文献

- (1) 厚生労働省「指定保育士養成施設の指定及び運営基準について」平成22年7月22日雇児発0722第5号
- (2) 厚生労働省「指定保育士養成施設の指定及び運営基準について」平成24年3月30日雇児発 0330第13号
- (3) 野田敦史 (2012)「施設実習とは」p110-113教育・保育実習と実習指導 (2012)

参考文献

- 大嶋恭二 (2008)「保育士の専門性と養成の課題」東洋英和大学院紀要
- 野田敦史・藤田雅子 (2011)「保育士の専門性における構成要因の検討」東京未来大学研究紀要
- 清水里美・吉島紀江・志澤康弘・藤本史 (2012)「保育士養成課程における実習指導上の留意点―施設実習の事前指導における教育内容の検討―」平安女学院大学研究年報
- 多田内幸子・重永茂 (2013)「施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査」